



都筑こどもNEWS 2017

地域に密着の放送局 「テレビ神奈川～tvk」

「テレビ神奈川～tvk」は地域に密着した情報を提供する「独立放送局」です。



番組が放送されるまでには、内容を決める会議や番組を録って、編集をする作業があります。1分のVTRを編集するのに、1時間くらいかかることもあります。1つの番組をつくるには多くのスタッフが必要です。総合責任者の「プロデューサー」、指揮官的な役割でロケにもいく「ディレクター」と補

佐する「アシスタントディレクター」。時間管理をする「タイムキーパー」、音響効果やBGM担当「音効」、その他にも映像を切り替えたりする「スイッチャー」やVTRを出す「V出し」、画像の調整をする「ビデオエンジニア」、スタジオの照明の調整をする「照明」、音の管理をする「音声」など、裏方だけでもこんなにたくさんのお仕事があります。スタジオや編集室を見せていただき、実際に忙しく動き回っているスタッフの方たちのようすも知ることができました。(2017.8.23)



「横浜F・マリノス」はサッカーだけじゃない！

横浜F・マリノスは、J1という日本一を決めるリーグで3回目頂点にたったことがあり、他のカップ戦でも数々の優勝を誇る名門チームです。

マリノスには、マリノス君、マリノスケ、ワルノスというマスコットキャラクターがいて、ホームゲームに行く与会えます。その他にも、横浜3R夢プラン『横浜3R夢！』広報大使に任命されたり、県民のAED認知度100%を目指す『かながわAED宣言』で連携したり、落書きのない美しいまちヨコハマ啓発リーフレットに協力したりと、みんなに役立つ地域のPR活動に参加しています。

2004年にマリノスが始めたJリーグクラブ唯一の知的障がい者サッカー『フトゥーロ』というチームは、今ではフトゥーロの大会が開かれるほどになっています。その他にも電動車椅子サッカーの大会「横浜F・マリノスカップ～電動車椅子サッカー横浜大会～」のサポートもしています。

(2017.9.16)



ホームページにはもっとくわしい記事があります。ジュニア編集局で検索
<http://junior.minicity-plus.jp/>



ベトナムに行ったジュニア記者からレポートが届きました！

ジュニア記者の活動を夏までしていた折下陽春くんが、ベトナムにお引っ越し、現地からレポートを送ってくれました



日本国総領事館付属商工会
ホーチミン日本人学校

ぼくは、ベトナムの日本人学校に通っています。先生は基本日本人ですが、英語の先生は、各国の先生（アメリカ、オーストラリア、フィリピン、イギリスなど）で、事務員さん、清掃員さん、バス運転

平日の一日は、朝ごはんを食べたら、7時50分にスクールバスがきます。8時20分に朝の会があり、授業は毎日6時間。3時半くらいに帰りのバスにのります。その後は家で遊んだり、勉強したりします。

習い事は、サッカー、水泳、英語、塾などがあり、人気です。水泳は先生がマンションのプールに来てくれます。

学校やマーケットのようすなどの写真です。

写真&レポート：折下 陽春



図書館



22台もあるスクールバス



ベトナム

【人口】
約9270万人
(日本1億2700万人)
【国土】
33万1690平方キロメートル
(日本の0.88倍)
【首都】
ハノイ
【気候】
平均32.3度

まちなかのマーケットのようす & ベトナムごはん



魚屋さん



自転車の果物屋さん



雑貨屋さん



フォー



野菜屋さん



鳥屋さん



パインセオ



ブン

ミニビブリオバトル開催レポート



昨年(こぞ)の東京都市大学横浜キャンパスで開かれたミニビブリオバトルに続き、今年はなんと！都筑図書館のある、都筑区総合庁舎でのビブリオバトルとなりました。ビブリオバトルとは、プレゼンターが自分のおすすめの本を紹介し、そこに集まった読みたくなった本を投票してチャンプ本を決定する、スポーツのような書評会です。

多くの人たちににつききジュニア編集局の活動を知ってもらおうと、都筑区総合庁舎1Fの区役所ホールにパネル展示を行いました。

ミニビブリオバトルは6Fの大会議室で行い、ジュニア記者3名、いつもジュニア編集局をサポートしている東京都市大学の大学生5名、都筑図書館の司書さん、つづき

図書館ファン倶楽部の大人2名の、全部で10名が出場しました。

今回選ぶ本のテーマは「あこがれの人」です。

なんと、「日野原重明」さんの著者が大人とジュニア記者でかぶりでしたが、お医者さんの格好を模して、聴診器を持って熱演した、草郷緑彩さんの選んだ「いのちのおはなし」という絵本が、チャンプ本に選ばれました。

どの本も魅力的で、会場からの質問が多く飛び交いました。当日はタウンニュースの取材もあり、後日草郷さんが堂々記事に登場しました!!



ジュニア記者10期生募集!!

ジュニア記者は都筑区を中心とした地域の取材活動を通して、たくさんの体験ができます。年齢も学校の違う友だちもできて、楽しい活動です。あなたも記者になって活躍してみませんか？

ジュニア記者になれる人は・・・

- ◆2018年4月時点で、小学5年～高校生までの方。(昨年度では、4年生から募集していましたが、今年は5年生からの募集とさせていただきます。)
- ◆2018年5月から2019年3月まで年間を通して編集会議や取材に積極的に参加できる方。
- ◆都筑区に通える人なら、都筑区民でなくても横浜市民でなくてもOKですが、取材や会議は都筑区内が中心となります。
- ◆パソコンでの送受信ができる方。保護者のメールの代行もOKです。データのやりとりをするため、携帯メールのみは不可です。パソコンが難しいけれど、参加したいという方は、事務所のあるシェアリーカフェ(都筑区中川駅徒歩3分)にきていただき、ここのパソコンで閲覧することも可能ですので、ご相談ください。

“これから記者になりたいみなさんへ” — 9期生の記者の活動についてレポートです—

■5月 最初の編集会議

東京都市大 横浜キャンパスに集まり、午前中は、記者の活動の説明がありました。(これは保護者の方もぜひ聞いてください。)



取材してみたいこと、場所、1年間でどんなことをやってみたいかについて意見を出し合いました。また、とくに編集なども担当する、特集取材班の希望者も募りました。

NOTAというツールをつかって、情報交換をするため、その演習をしました。NOTAは、とても簡単で15分もあれば、覚えられます。自分だけのパスワードをもらい、ログインします。インターネット上で、家のパソコンからジュニア編集局メンバーとスタッフでのやりとりができます。



※NOTA画面キャプチャー

■6月 記者講座 文章講座

専門家の先生に来ていただき、記者の心得や文章を書くときのコツなどを教えていただきました。書いた作文は、先生が後日添削してくれますので、とても勉強になります。

■7月～11月 取材活動

企業や施設、イベントなどを取材します。大人スタッフから、「8月●日、□〇会社への取材者募集」とメールが流れます。人数は先方によりますが、おおよそ10名程度です。先着が基本ですが、まだ取材していない人が優先になることもあります。取材が決まると、待ち合わせ場所の案内などがメールで届きます。

たとえば、夏休みに取材したある企業のときには、地下鉄駅で大人スタッフ、学生スタッフと待ち合わせし、会社まで歩いていきました。

担当の方や社長さんが対応してくれて、説明を聞いたり、会社の中を案内してもらったり。記事をメインで書く人を話合いで決め、メールで記事を送ってもらうか、NOTAに書き込みます。(感想は全員提出してもらいます。)

記事は、大人スタッフが取材先にもチェックしてもらい、完成させ、ブログにアップします。

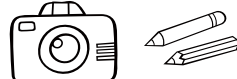
■10月～11月 ジュニアタイムズの編集会議を行います。

特集取材班が中心に会議で内容を決めます!



活動の流れ

- ◆5月の土日のどこかの1日：説明会 & 編集会議
- ◆5月～6月の土日のどこかで1日：記者講座
- ◆7月～11月：取材活動、編集会議数回
- ◆12月：編集会議、交流会など
- ◆1月：ジュニアタイムズ発行
- ◆3月：パネル展示など



その他

- ◆取材は土日か夏休みを中心に行います。
- ◆独自に取材に行くことも歓迎します。
- ◆保険料、文具などの諸経費実費として、登録料1人1000円がかかります。
- ◆取材のときの交通費や飲食代は自己負担です。
- ◆ジュニア記者の活動には保護者は原則つきそいできませんが、最初の説明会 & 会議にはぜひ参加してください。

ジュニア記者になりたい人は

お申し込みは、名前、2018年4月からの学年、応募動機、連絡先を書いて、必ずPCメールから応募してください。年度途中からの参加はできません。

申し込み先：
minicityplus@gmail.com

応募締め切り：3月21日(水)
※締め切りは厳守となります。

定員：40名程度
(定員を超えた場合、抽選になることがあります。)

3月22日～3月末の間に、結果をお知らせします。



ジュニア記者になって 宮下 敦行

ぼくは、今年初めてジュニア記者に参加し、中心となって活動できる特集取材班に入りました。様々な活動の中で、とても良かったことは大きく分けて二つあります。

一つ目は、色々な人と関わる、ということです。ジュニア記者になると、他校の生徒たちや大学生スタッフなど、普段関われないような人たちと関われます。また、都筑区あるいは横浜市の会社や施設などへの取材の中で、様々な職業の方々とも関わり、色々なお話を聞けます。

二つ目は、様々な会社や施設を取材し、そこで得た情報を記事にする、ということです。取材中のやり取りのための「コミュニケーション能力」や「交流力」、理解しやすいように質問をし、取材後に記事にするための「語彙力」、パソコンで記事を書くための「パソコン操作のスキル」等を高めることができます。

ぼくは、特集取材班に入って本当に良かったと思っています。この記事を読んだあなたがジュニア記者に興味を持ったら、ぜひとも特集取材班に入ることをお勧めしたいです。

